

たき火を囲んで 薪割り大会



彩工房では、「暮らしと住まい」をテーマに、日常を豊かにするさまざまな催しを行っています。
11月は、恒例の薪割り大会を開催します。

暖かい炎を眺めていると、時間が経つのを忘れるものです。
こぼしいたき火の匂い、澄んだ森の空気、寒い冬もやっぱり外は気持ちがいい。
子どもは、枝葉や木くずで遊んだり、大人は木を伐って、割って、一日木こりになったような
体験をしてみませんか。

会場は、豊かな森の中に佇む workshop です。
山から伐り出された木が職人たちにより乾燥・製材され、強く美しい木組みが生まれていく過程
を見ることができ、木の匂いがいっぱいです。ぜひ覗いてみてください。

定番の豚汁とお釜炊きご飯に加え、今年は南インド野菜カレーもやってきます。
昨年大好評だったしいたけの原木菌打ち体験もやります。

薪ストーブって、暖かいの？やっぱり手間がかかる？薪はどうやって集めてる？といった薪ストーブ
に関するよもやま話もしていただけます。
薪ストーブをお持ちの方も、たき火が好きな方も、木が好きな方も、ぜひお集まりください。

とき **11月29日(日) 10:30-15:00**

ところ **彩工房 笠取 workshop**

主催：彩工房

木を燃やす

火が燃えだすと、その場の空気が変わる。
そんな気がするの、生物の本能でしょうか。

子どもは火遊びが大好き。

でも実は大人も、なかなか火のそばを離れられません。
くべた木がだんだんと燃えていく様子に見入ってしまいます。

体の中からじわじわ暖まってきて、なんとも心地よい。
少し気まずい人との間にも火があると、
なかなか居心地がよくなったりするから不思議です。

おじいさんおばあさんが子どもだったころ、
森で木を拾って運んでくるのも、

燃やしてお風呂を焚くのも、子どもの仕事だったとか。
もちろん火傷をする可能性は増すでしょう。

薪の用意も掃除もついて回ります。
それでも火がもたらしてくれる

楽しさ、美味しさ、ほっとする感じ。
そんな思い出は、もっと大きいものかもしれません。

木が燃えて残るものは、灰。

灰は畑の栄養となります。
木を伐り出した後の森、

そこには新たな木が芽吹きます。

便利な電気やガスが広まって、私たちも、子どもたちも、
森に入らなくなりました。

遠い国から燃料を買ってくるよりも、
近くの森の木を燃やして暖まることは、
案外賢い選択なのかもしれません。



11月29日(日) 10:30-15:00

*雨天決行

会場

彩工房 笠取工作所

〒601-1393 京都府宇治市二尾膳前谷 9-1

- ・京滋バイパス笠取IC、南郷ICから共に5分
- ・各インターより滋賀県道・京都府道3号(宇治川ライン)を宇治方面へ、
乗馬クラブ(カシオペアライディングパーク)入口を右折すぐ

定員

40名

参加費

500円/名 乳幼児無料

- *豚汁、ご飯、南インド野菜カレーのお昼、おやつ代および保険代を含みます。
- *割った薪は、一家族10束1,000円にてお持ち帰りいただけます。



お申込み・お問合わせ ▶▶▶

彩工房ホームページのお申込みフォームにて、参加される方全員のお名前とご連絡先をお伝えください。11月7日(土)より受付を開始します。



彩工房

<http://www.saikobo.co.jp> info@saikobo.co.jp
tel:075-632-9889 京都市山科区四ノ宮大將軍町 15

次回の暮らしと住まいのセミナー

1/24 家づくり教室を予定しています。